

川崎市教育長 渡邊直美 様

党市議団の「市民アンケート」で寄せられた通学路の危険箇所の情報・意見を提出し、子どもの安全対策を推進することを求める申し入れ

二〇一三年三月十五日 日本共産党川崎市会議員団 団長 竹間幸一

昨年来、京都府亀岡市の事故をはじめ全国で通学中の児童が巻き込まれる交通事故が相次ぎ、保護者・市民の不安が広がるなか、全国的に通学路の安全対策が強化されてきています。川崎市では昨年六月、教育委員会を事務局とする「川崎市通学路安全対策会議」を発足し、全庁横断的に危険箇所の調査と安全対策を推進する取り組みを強めておられます。

そうしたなか、わが党議員団もこの問題を重視し、昨年七月から市議団で行なった市民アンケートの設問で「小中学校の通学路で危険だと思ふ場所があればお書きください」と市民意見を募ったところ、通学路の危険箇所をはじめ、治安面も含め、子ども・歩行者が危険を感じる場所など延べ約三三〇カ所・項目にのぼる危険箇所の情報、意見、要望が寄せられました。(アンケート回答数は今年3月14日現在、延べ5240通)

意見の中では「絶対に危ない。ひかれた子、ひかれそうな子を何度も見ました」「子どもが道路の真ん中まで出て歩かざるを得ません。いつ事故が起きてもおかしくない場所です。早急に対応をお願いします」「何度も事故があるのに対応してもらえない」「通学路があまりに危険だと思い、子どもの小学校入学を機に転居した」など、緊急の対策・対応を求める声が多数含まれています。

つきましては、党市議団の市民アンケートで寄せられた情報・意見・要望をまとめ提出いたしますので、関係部局と検討し、これらの市民意見を参考にして現場確認も含め今後の危険箇所の調査・把握に生かしていただくとともに、安全対策を強力に着実に推進していただくよう要望いたします。

なお、アンケートで地図付きで危険箇所・改善要望を出されている意見は、後ろに地図をそのまま添付しておりますので、意見と照合し参考にしてください。

以上